

三鷹の森学園副学園長
 第五小学校 校長 鈴木 尚子

高山小学校
 三鷹の森学園研究部長 関口 佳美

学校教育法に、「学力の3要素」が示されています。

平成24年度より三鷹の森学園では、この中の「思考力・判断力・表現力」の育成に焦点を絞り、小・中学校9年間の「言語活動」を充実する授業づくりに取り組んできました。

「私は何か月でも何年でもひたすら考える。
 99回は間違い、100回目ですいに正しい結論へとたどり着く。」

これは、アインシュタインの言葉です。小・中学校の子供たちは、何年も同じ課題について考え続けることはありません。しかし、小・中学校9年間の学習で「考える機会」は何回もあります。学園研究では、自分が考え表現する活動、他者と互いに考えを伝え合う活動を、日々の授業で大切にしてきました。

高山小 小・中一貫教育コーディネータ
 松川 裕代

「地域と学校の連携が子供たちの学習意欲を高める！！」

このことは、今回の学園研究で明らかになった事のひとつです。地元の良いものは、宝です。学校農園のチョウの卵は、子供たちを夢中にさせ、観察カードも詳しいものになりました。井の頭自然文化園から借りた頭骨は、中3の生徒たちの思考を刺激し、多様な考えを引き出しました。今後もコーディネータは、地域の良い情報や地元の宝を、三校が生かせるように連絡・交流しやすくすることで子供たちの成長を豊かにしたいと考えています。

CSの皆様、保護者・地域の皆様にお力添えをいただき、研究発表会を無事終えることができました。本当にありがとうございました。

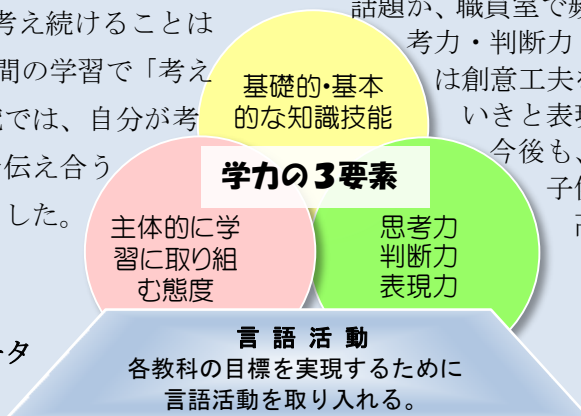
「自ら考え表現する力」を育てるため、第五小・高山小・第三中の全教員で知恵を出し合ってきた2年間。授業研究を通して、小・中9年間の学びのつながりや、各校における教育活動の工夫を、理解・共有することができました。

研究発表会後も、「もっと面白い理科の実験はありませんか?」「音楽の鑑賞は、どんな風に答えさせればより深い学びになると思う?」「よりよく表現させるには、学習カードをもっと工夫しなければ。」という話題が、職員室で頻繁に聞かれます。児童・生徒の「思考力・判断力・表現力」を育てるために、教職員は創意工夫を続けています。自分の意見をいきいきと表現する児童・生徒も増えてきました。今後も、楽しく分かる授業作りを追求し、子供たちの「自ら考え表現する力」を高めていきたいと考えます。

五小 小・中一貫コーディネータ
 下津 由子

「それぞれの良さを生かしながら・・・」

今年度は学園組織を見直し、拡大運営委員会を機能させ、各部の長を通じて各学校の組織を生かして運営できるようにしました。研究発表があり、研究推進委員と共に連絡・調整をしながら進めました。小・中学校への授業乗り入れも各校の実態に合わせて進められています。これからも「より良く」の視点を大切にしながら、9年間の充実に取り組んでいきます。



三中 小・中一貫教育コーディネータ
 服田 昌樹

研究会への参加はコーディネータとして2回目ですが、今回が一番大変でした。会場校の準備と研究授業の両方をこなした為ですが、助言者の林四郎先生や分科会の先生方の適切なアドバイスでよく言語活動が見られた授業となったと、前日の準備の手伝いも含めて感謝しています。

